

NO **4114** レジメン名 **BV - ロンサーフ**

病棟 患者番号 氏名	癌種	ステージ	PS	クール数	指示医師名
				~	
	年齢	身長	体重	体表面積	GFR(血清クレアチニン値)
	歳	cm	kg	m ²	ml/min (mg/dl)

【適応がん種】Colon K	BV/TAS102	CCr補正	GOT補正	T-Bil補正	【病状】 1 全て説明している 2 病名は説明しているが、詳しい病状については説明していない 3 未告知である 【治療】 1 抗癌剤による治療・予防と説明 2 抗癌剤とは言わず治療薬と説明 3 抗癌剤とは言わず予防薬と説明 4 薬に関しては説明していない 平成22年1月7日 改訂
1・ベバシズマブ 5 mg/kg DAY1.15		-	-	-	
2・ロンサーフ(下記参照) DAY1~5、8~12		50減量, 30禁	2.5倍以下	1.5倍以下	
		-	-	-	
		WBC基準	HGB基準	PLT基準	
		3000	9	100000	
		T-Bil	Scr	GOT/GPT/ALP	
		施設基準値の1.5倍以下		2.5倍以下	

28日(4週)1クール	NO 薬品1	規格	本数	薬品2(規格本数)	時間・投与方法
	① ベバシズマブBS()mg	400mg	本	生食100mL	1時間30分で点滴
		100mg	本		
	② ★生食50mL		1 本		ベバシズマブ後~全開で投与

★DAY1に ロンサーフ配合錠 10日分 オーダー必要★

ロンサーフ 35mg/m ² (端数切捨て) 分2 Day1~5、Day8~12 合計10日分					
A	BSA1.07未満	ロンサーフ 70mg/BODY/DAY	15mg 2錠 + 20mg 2錠	分2 朝夕食後	10日分
B	1.07 ≤ BSA < 1.23	ロンサーフ 80mg/BODY/DAY	15mg 0錠 + 20mg 4錠	分2 朝夕食後	10日分
C	1.23 ≤ BSA < 1.38	ロンサーフ 90mg/BODY/DAY	15mg 6錠 + 20mg 0錠	分2 朝夕食後	10日分
D	1.38 ≤ BSA < 1.53	ロンサーフ 100mg/BODY/DAY	15mg 4錠 + 20mg 2錠	分2 朝夕食後	10日分
⑥ E	1.53 ≤ BSA < 1.69	ロンサーフ 110mg/BODY/DAY	15mg 2錠 + 20mg 4錠	分2 朝夕食後	10日分
F	1.69 ≤ BSA < 1.84	ロンサーフ 120mg/BODY/DAY	15mg 0錠 + 20mg 6錠	分2 朝夕食後	10日分
G	1.84 ≤ BSA < 1.99	ロンサーフ 130mg/BODY/DAY	15mg 6錠 + 20mg 2錠	分2 朝夕食後	10日分
H	1.99 ≤ BSA < 2.15	ロンサーフ 140mg/BODY/DAY	15mg 4錠 + 20mg 4錠	分2 朝夕食後	10日分
I	BSA2.15以上	ロンサーフ 150mg/BODY/DAY	15mg 2錠 + 20mg 6錠	分2 朝夕食後	10日分
Day1~5服用 Day6~7休み Day8~12服用 Day13~28まで休み					

- 【1. 原則禁忌】
●脳転移患者(脳出血のおそれ)
- 【2. 投与前必須検査】
●投与前・後に血圧測定 BP180/120を超える場合は主治医へ報告
●ベバシズマブ検査セット(●血液算定●T-Bil●GOT●GPT●ALP●ALB●Scr●CRP●尿蛋白測定●PT-INR●APTT●フィブリノーゲン●D-ダイマー)
- 【3. 投与可能条件】
●WBC3000以上(好中球1500以上)●HGB9g以上●PLT100000以上●T-Bil施設の基準値1.5倍以下
●GOT/GPT/ALP基準値の2.5倍以下(肝転移を有する場合は5倍以下)●血清クレアチニン値基準値の1.5倍以下
- 【4. 減量方法】
●白血球1000未満(好中球500未満)●血小板数50000未満●消化器系グレードⅢ以上の有害事象
上記のいずれかを認めた場合約20%程度減量考慮

月日	指示	指示医	受け	監査	払い	払監	調製	調監	前確	実施
	①② DAY1									
	①② DAY15									

- ベバシズマブ投与 リスク患者:
- 1) 消化管など腹腔内の炎症を合併(消化管穿孔のおそれ)
 - 2) 大きな手術の術創が治癒していない(創傷治癒遅延による合併症)
 - 3) 先天性出血素因、凝固系異常のある患者(出血のおそれ)
 - 4) 抗凝固剤投与中の患者(出血のおそれ)
 - 5) 血栓塞栓既往患者(心筋梗塞、脳梗塞、深部静脈血栓症、肺塞栓症のおそれ)
 - 6) 高血圧患者(悪化のおそれ)
 - 7) 高齢者(重大な副作用が現れやすい)
 - 8) 妊婦、授乳婦(動物実験で催奇形性、授乳中に移行)